

【4】飾り雛への道・・・お江さま（NHK 大河ドラマの）との？

な、なんと、あのお江さまと関係があるんですよ。もう少し読み進めてください。

祓えの撫で物としたその場限りの人形は、技術の発達と装飾的なものとなり、やがて鑑賞用となって、雛が3月3日の主人公的な存在となりました。3月3日・雛祭りといって冒頭の歌のように雛を飾ることが大切な行事になってきました。

① 雛・・・雛は撫で物として、身体を撫でて穢れを祓う古来の風習からおこりましたが、その頃は天勝（あまかつ）、這子（ほうこ）など言って幼児の形の白い縫いぐるみで、幼児の枕元などに置いて御守りとなりました。

② 座り雛・・・現在のように雛段の上に鎮座するようになりしたのはいつの頃でしょうか。ここでお江さんとの関係が出てくるのです。徳川家康の孫東福門院が子どものために作った座り雛がその初めであろうと言われています。

③ 東福門院和子・・・彼女は2代目将軍徳川秀忠とお江さんとの間に生まれた娘さんです。徳川幕府の婚姻による朝廷懐柔策のため、元和元（1619）年14歳で、後水尾天皇の中宮として入内（じゅだい）しました。元和九（1623）年、皇女興子（おきこ）が生まれました。興子は美しく賢い子に育っていききました。

寛永6（1629）年幕府と朝廷が対立する中で起こった紫衣事件（後水尾天皇が従来行ってきた高僧への紫衣着用の許可を、禁中並公家諸法度に紫衣許可は慎重にとの規定に違反するといつて、幕府は之を無効とした。）などで、後水尾天皇は譲位を決意しました。天皇は周囲の反対を押し切って六歳の興子に譲位されたのです。平安時代以来絶えてなかった女帝の誕生となりました。これが109代明正天皇です。お江さんの孫が天皇になられたのです。

④ 明正天皇・・・中宮和子は興子が健やかに育ち、美しい花嫁になって嫁ぐ日を夢見ていたのだが、天皇になってはもはや結婚は出来ないであろうと、興子の幸せを夢に描いた押し絵の掛け軸をつくりました。モデルは美女の代表小野小町と美男として名高い在原業平（ありわらのなりひら）という夫婦の座り雛でした。これが現在の雛のはじめといわれています。

⑤ 雛人形・・・ひな人形が飾られるようになったのは寛永（1624～1643）の頃で、その頃の大きな雛は寛永雛と呼ばれています。その後、小さな享保雛（1716～1735）が現れ、寛延（1748～1750）頃には二段飾り、明和（1764～1771）頃には三段となり、文化・文政時代を経て天保（1830～1843）の頃には七段飾りという、現在と同じ豪華な雛段が作られるようになりました。

【5】右と左ではどちらが上か

① 現在 男雛は右（向かって左）、女雛は左（向かって右）に飾ってあるが、関西の京風では古式にならって男雛は左（向かって右）、女雛は右（向かって左）と逆になっている。

② 左か右か 左上位か、右上位か。歴史をたどってみましょう。中国では戦国時代に兵事及び車上のみは例外として左を優先していましたが、ほかのすべては右優先の風習でありました。

漢の時代になって統一されて右上位となり、漢語に現れる意味はすべて右上位です。

漢語の右・左の例

ア、右には「貴い」「大切な」などの意味があります。

- 1、右姓（ゆうしょう、尊い家柄）
- 2、右職（地位の高い官職）
- 3、右腕（最も信頼している部下）
- 4、右に出る（他より優れている）

イ、左は「いやしい」「低い」などを意味しました。

- 1、左遷（官位を下げる）
- 2、僻佐（いやしいこと）
- 3、左前（物事が順調にいかなくなる）

その後、六朝時代の混乱期を経て唐の時代になって逆転し、左上位になりました。日本の文化は唐の文化をに影響を受け、平安時代に確立した日本の制度は左優先となりました。佐大臣は右大臣より上席になりました。文化面でも、かみては左（客席から舞台に向かって右）。しもては右（向かって左）となっている。

【6】雛の世界では

① 東福門院が興子「明正天皇」の幸せを祈ってつくった座り雛は、男雛は右（向かって左）、女雛は左（向かって右）に描かれています。興子内親王が天皇になられたので女帝は上位であるために、女雛は左（向かって右）としました。

② 現代では関東風の内裏雛は男雛が向かって左。関西では京風の内裏雛は向かって右に男雛、左が女雛になっています。

※明正天皇の御陵は京都の泉涌寺（せんにゅうじ）内にあります。

身近な行事雛祭りにも、いろいろな変遷の歴史がありました。NHK 大河ドラマの「江」の孫娘と雛の押し絵。おもしろいですね。泉涌寺には楊貴妃観音も祀っていますよ。



海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台 3-39-9
TEL : 03-5754-2240 FAX:03-5754-2241
HP : www.jolnet.com



前号の「お正月」に続き、「おひなまつり」の由来の紹介です。ぜひ、お子さんに噛み砕いて説明してあげてください。日本の伝統行事が、中国とつながり、長い歴史を経て今日の姿になっていることをお子さんが知って、「伝統や文化」の意味を考え始めます。